

## M3 Male

ミシガン大学病院の Emergency Department にて 1/8-2/6 の 1 ヶ月間臨床実習を行いました。

### 【出発までの流れ】

5月に日本語面接、英語面接、書類選考が行われ、大学からの推薦先が決まり、実習するために必要なワクチン接種等を6月、7月に終わります。その後、10月初めにミシガン大学の担当者に診療科の希望と CV、Dean letter、TOEFL のスコア等を提出し、11月の初めに先方から受け入れ許可のメールを頂きました。その時点で診療科は決まっておらず結局最終的に emergency department での実習が確定したのは直前の 12/20 でした。

### ・診療科の希望について

今年度から診療科は、シラバスをわたされその中からプログラムを第5希望まで選択してマッチングをするというスタイルになりました。プログラムは各専門科毎に分かれていて多様です。（例えば diagnostic radiology も腹部、心臓、骨などと細分化されています）

### 【出発前の勉強】

#### ・USMLE

ミシガン大学での実習には、Global reach というミシガン大学医学部の海外留学生受け入れプログラムの一環として参加する事になります。このプログラムで留学生は observer という立ち位置であり、USMLE の取得は必要ないことになっていました。来年以降また状況が変わってくるかもしれませんが、USMLE 受験の必要なくアメリカの大規模な大学病院で実習ができるのは一つのメリットであると思います。（受験が必要かは必ず毎年確認して下さい！簡単に変わります！）

ただもちろん step1 を持っている現地の医学生と一緒に実習をする事になるので、取っておくにこしたことはありません。僕自身は受験をしませんでしたが First aid と QandA は読んで行きました。

#### ・TOEFL

USMLEstep1 の取得の必要が無い代わりに TOEFL の点数が必須となります。他の海外の志望者との比較材料がほぼこの点数だけとなるのでなるべく高い点数が好まれます。丸山先生からは最低でも 95 点、できれば 100 点以上とのお話でした。

診療科の応募の時期が 10 月初めだったので 6 月くらいから単語帳や参考書を買いました。

ずつ勉強して、8月までに2回受験してスコアを取りました。

・その他

その他、キクタンメディカル等で単語を詰めたり、友達と英語医療面接の練習を step2 の教材を用いて行ったり、英語でのプレゼンテーションの本を読んだり、適宜準備しました。

### 【実習】

Emergency Department での実習はミシガン大学の M4 の学生の班に加わって行いました。1 週間のうち 2 日間は講義を受講し、3 日間は 1 日 8 時間のシフトに入って resident や attending と共にチームに加わり診療に参加しました。講義では、心肺蘇生のアルゴリズム、救急における ABC の assessment や治療法、薬物中毒等に対するアプローチ等の座学から始まり、挿管や縫合、ギプスの巻き方等の実技指導もあって、救急医療の基礎を一通り学び直す事が出来ました。講義は自由な空気で、指導医も学生もお菓子を食べて、コーヒーを飲みながら、といった感じでした。

ローテーションでは毎日違うチームに所属して resident と共に新患の病歴聴取、診察そして治療計画の立案を行いました。

実習は observer としての参加です。observer は基本的には患者さんに一人でコンタクトしたり、処置をしたりといったことは許されていません。説明では just shadowing と表現されており、文字通り上級医の後ろに付いて回るだけということとなります。ですが、実際は resident や attending の裁量によるところが大きくて、自分の医学知識と積極性をアピールすれば first touch を任してくれることも多かったです。その時は一人で病歴を取りにいき、一通り身体診察等を行い、assessment, plan までをたてて resident にプレゼンテーションをし、行う検査や治療方針を議論しました。指導医は、任せた患者については鑑別診断等のヒントや答えを教えないスタンスの方が多く、常に「What do you think?」と自身の頭と知識で考える事を要求されてかなり刺激になりました。

症例は胸痛や腹痛を主訴にくる方が多く、胆石や狭心症、心房細動といった common disease から、交通事故で開放骨折となり大腿骨が完全に外に出ている方や、BMI80 オーバーの方等、バリエーションに富んでいてとても面白かったです。

これとは別に Global reach プログラムの講義が週に一回あり、主にアメリカのヘルスケアシステムや医学教育の問題点や各国との比較をテーマに講義や議論を行いました。アメリカの医療関係者が自身の医療制度をどう見ているのか聞く事が出来たり、日本の医療制度を外から見直す良い機会になったりして為になりました。

## 【生活】

寒いです。しかし、慣れます。気温は低い時で-28℃、高い時は 0℃を超える日も数日ありました。（そういう日は祭りです）

ミシガン大学のあるアナーバーという街は日本でいうつくばのような学園都市で、現地のひといわくアメリカで一番安全な街らしいです。実際救急部を一ヶ月回ってもガンショットや刺傷等の患者さんは一人もおらず、とても平和でした。

宿舎は病院からバスで 10 分くらいのところにある寮です。一人一部屋が与えられて朝、昼、晩すべて食事が出ます。（美味しくはなかったです）寮にはミシガン大学の他の学部に通う学生達が多く住んでいました。国籍は様々でアメリカ人、中国人、インド人から南アフリカ人まで...夕飯の時間帯に食堂に皆集まってそこで専門分野の話からくだらない話まで、色々喋りました。寮には他にビリヤードルームや音楽スタジオまであって充実しています。

休みの日は同じ **Global Reach** プログラムに参加したブラジル人の友達とショッピングしたり、寮の人とデトロイトに行ったり、一緒に実習した松田君とカナダまで足を伸ばしたり...割とエンジョイしていました。これもエレクラで海外に実習に行く醍醐味の一つだと思います。

## 【最後に】

僕は帰国子女というわけではなく英語にもあまり自信が無かったこともあり、正直応募の時点では海外に実習に行くこと自体迷っていました。ただ実際行ってみると、「アメリカの医療」を直接感じる事ができ、現地の学生達とも交流できてこれ以上無い経験になりました。応募して決して後悔しません。

このような貴重な機会を与えて下さり、またサポートして下さった丸山先生、Carrie さん、大坪先生、そして励まし合って共に 1 ヶ月実習をした松田君に、心より感謝致します。

## 【写真】

ミシガンで撮った写真です、少しでもイメージになれば！



fig1 病院内部① 廊下はとても広く、壁には絵が掛かっていて買えるものもあります。



fig2 病院内部② 広すぎて院内の待ち合いスペースが森になっていました笑



fig3 病院正面玄関



fig4 寮から病院への道 道路は良く整備されていて、案外歩きやすかったです。（雪に埋まる日もあります）



fig5 ダウンタウン スタバやコンビニ等、生活用品は全部そろいます。



fig6 寮の部屋 こじんまりとしていますが居心地は良かったです。